

令和6年度 第1回中央区協議会
(中地域分科会)
会議資料

【協議事項】

ア 中央区地域力向上事業 協働センター等を核とした地域課題解決事業について **【区振興課】**

・「あおぞら協働センター（移動型協働センター）の運営～つどう・まなぶ・むすぶの創造拠点～」 **【区振興課（富塚協働センター）】**

・「楽しく学ぶ防災事業 高台BASE事業2」 **【区振興課（高台協働センター）】**

令和6年4月24日開催

中央区協議会
(中地域分科会)

区 分	<input type="checkbox"/> 諮問事項 <input checked="" type="checkbox"/> 協議事項 <input type="checkbox"/> 報告事項
件 名	中央区地域力向上事業 協働センター等を核とした地域課題解決事業 「あおぞら協働センター（移動型協働センター）の運営～つどう・まなぶ・むすぶの創造拠点～」について
事業の概要 (背景、経緯、 現状、課題等)	<p>経緯： 令和元年7月、沖縄県那覇市の若狭公民館で行われている「パーラー公民館」にコミュニティ担当職員が研修で参加し、「地域コミュニティの原点は、楽しい時間を共有すること」と実感する。令和2年度から事業を開始し、参加者などと顔の見える関係の構築を目指し、地域づくりのきっかけとなっている。</p> <p>課題： 研修後、地域の各種団体と話をするなかで、次のような課題が地域に内包していることが明らかになった。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 子供たちが外で遊ばない。 (2) 幅広い世代の交流が少ない。 (3) 地域コミュニティが希薄になっている。 <ul style="list-style-type: none"> ・これら包括的な課題解決を目指し、令和2年度から佐鳴湖公園で大きな白いパラソルのもと、アーティストによるワークショップ等を6～12月までほぼ毎週開催する事業を4年継続して行った。 ・参加者と話す中、運営は地域住民と協働センター職員による実行委員会方式が適切と判断した。 ・「人が集まると何かが起きる」をコンセプトとし、このプラットフォームで知り合った地域住民同士や職員が次々に顔見知りになり、数々の事業協力があつた。 ・あおぞら協働センターに招いているアーティスト6人による団体による「ワークショップ ヤー！ヤー！ヤー！」が令和4年10月に初めて開催した。令和5年9月、「ワークショップ ヤー！ヤー！ヤー！2」も開催し、社会教育施設としての役割だけではなく、文化・創造拠点としても機能した。 ・地域住民がアートを身近に触れる機会となり、多様性を認めるダイバーシティ推進の役割も担った。 ・親子連れの参加者が多く、外に出る機会はもちろん、地域住民と交流もあり、当初の課題であった世代間交流も増えた。 ・この取り組みは全国的にも注目度が高く、文部科学大臣表彰優良公民館「優秀館（全国第2位・浜松市初）」受賞の要因のひとつとなる。また、当該コミュニティ担当職員は「地方公務員が本当にすごい！と思う地方公務員アワード 2023」の受賞に至り、全国公民館連合会の全国公民館セミナー等全国各地で講演会を行っている。

対象の区協議会	中央区協議会（中地域分科会）
内 容	<p>事業目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あおぞら協働センターを通じ、住民との交流を深めるとともにワークショップ等を開催し幅広い知見を身につける。 ・「人が集まると何かが起きる」をコンセプトとし、人々の集まりやつながりを大切にしたい。 ・事業（活動）の内容は、主催側が全てのメニューを決めるのではなく、参加者が自由な発想で内容を提案できる試みを取り入れる。 <p>活動場所 富塚協働センター管轄地域（富塚町及び和合町の公園） ※主として佐鳴湖公園を想定</p> <p>活動内容</p> <p>集まった人々で何かが始まる「静」 創造性とユニークなワークショップを行う「動」</p> <p>これらを組み合わせ、地域住民の創造力に刺激を与え、地域づくりに豊かな発想を根付かせたい。 （ワークショップの具体例）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・布などの素材を用いた造形物などの作品づくり など <p>参加者・予定人数 各回 50名程度</p> <p>実施時期 令和6年5月～令和7年2月（毎月複数回の開催を想定） 事業の予定及び報告をチラシ等で実施</p>
備 考 （答申・協議結果を得たい時期、今後の予定など）	協議結果を得たい時期：令和6年4月末日
担当課	中央区区振興課（富塚協働センター）

必要に応じて、記入枠の拡大や資料等の添付をしてください。

地域力向上事業「協働センター等を核とした地域課題解決事業」

「あおぞら協働センター（移動型協働センター）の運営」事業 概算事業費内訳書

区 分	概 算 額	備 考
負担金	337,000円	<p>【協定締結先】 富塚ドリームサポーター連絡協議会</p> <p>【内訳】 報償費 10,000円（参加賞、賞品代等） 講師謝礼 175,000円 （内訳） 3,500円×3時間×8人分=84,000円（講師） 3,500円×2時間×8人分=56,000円（講師） 1,750円×2時間×10人分=35,000円（助手）</p> <p>需用費 150,000円 （内訳） 140,000円（事務用品、開催資材等） 10,000円（募集チラシ等）</p> <p>役務費 2,000円（郵便料等）</p>
計	337,000	

※備考欄には区分の内訳を具体的にご記入ください。

区分	<input type="checkbox"/> 諮問事項 <input checked="" type="checkbox"/> 協議事項 <input type="checkbox"/> 報告事項
件名	中央区地域力向上事業 協働センター等を核とした地域課題解決事業 「楽しく学ぶ防災事業 高台BASE事業2」について
事業の概要 (背景、経緯、 現状、課題等)	<p>背景：</p> <p>南海トラフ巨大地震がいつ起きてもおかしくない中、地域には「自助」「共助」が求められているが、これには地域コミュニティの向上は不可欠なものであると考える。また、令和6年能登半島地震災害が発生したこともあり、地域住民の防災の関心度は高いものとする。</p> <p>経緯：</p> <p>当該地域内の自治会における防災意識が高い半面、数年間続いたコロナの影響もあり若年層の地域防災訓練の参加率が減ってきている実情がある。これは防災に関する意識の低下と、地域コミュニティが希薄になっていることが要因であると地域住民から声が寄せられた。</p> <p>このため、協働センターがこれまで行ってきた「生涯学習」と、コミュニティ担当職員が培った「地域コミュニティ」を組み合わせた防災学習プログラム「高台BASE事業」を令和5年度に実施し、一定の役割は果たしたと考えたが、令和6年能登半島地震災害があり、委員より継続事業を望む声や、防災の関心度が高い今だからこそ、事業を継続する意味があると考えた。引き続き地域と一緒に防災について学習し考える機会を提供するもの。</p> <p>課題：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災に関する課題は地域性が求められる。このため、防災学習プログラムには地域住民の声と協力がより必要となる。
対象の区協議会	中央区協議会（中地域分科会）

<p style="text-align: center;">内 容</p>	<p>○事業目的 誰もが参加しやすい防災に関する学習プログラムを提供し、参加者同士の交流を促すことで小さなコミュニティができることを目的とする。</p> <p>○活動場所 ・高台協働センター ・市内屋外施設（主として和地山公園など）</p> <p>○活動内容 ①防災学習 ・成人や家族を対象とした、防災に関する講座を月1回程度実施する。 ・災害に限らず、生活の中には危険が伴うことが多く、防災の知識を生かした生きる知恵もフィールドワーク形式で学習する。</p> <p>②防災ワークショップ 和地山公園において防災に関するワークショップを実施する。令和5年度は「サバイバルワークショップ」を開催し、誰もが楽しく防災を学べたことから、引き続き多くの方に参加してもらえるワークショップ形式を展開する。</p> <p>③防災まち歩き 各小学校単位において、地域に潜む災害リスクを歩きながら学習する。委員の意見から昨年度も計画したが、引率者などの協力が必要なことから、地域の保護者と意見を交わし、今回から新たに計画する。</p> <p>④防災イベント 令和5年度は「高台えんにち（9月）」、「高台協働センターまつり（2月）」のイベント同時開催したことから、幅広い層、多くの方が参加された。また、イベントを通して協力者も増え、多世代交流も図ることができた。引き続き協働センターのイベントと同時開催を計画する。</p>
<p style="text-align: center;">備 考</p> <p>（答申・協議結果を得たい時期、今後の予定など）</p>	<p style="text-align: center;">協議結果を得たい時期：令和6年4月末日</p>
<p style="text-align: center;">担当課</p>	<p style="text-align: center;">中央区区振興課（高台協働センター）</p>

必要に応じて、記入枠の拡大や資料等の添付をしてください。

地域力向上事業「協働センター等を核とした地域課題解決事業」

「楽しく学ぶ防災事業～高台BASE事業2」事業 概算事業費内訳書

区 分	概 算 額	備 考
負担金	489,000円	<p>【協定締結先】 高台BASE事業実行委員会</p> <p>【内訳】</p> <p>報償費 324,000円 講師謝礼 4,500円×4h×12回=216,000円（講師） 2,250円×4h×12回=108,000円（助手）</p> <p>需用費 160,000円 消耗品 120,000円（開催資材） 40,000円（募集チラシ紙・印刷）</p> <p>役務費 5,000円 郵便料 1,000円（連絡用） 手数料 4,000円（振込手数料）</p>
計	489,000円	

※備考欄には区分の内訳を具体的にご記入ください。